

2020年3月期 第2四半期決算に関する主なご質問

- Q: 各地での建築用ガラス事業の需給悪化の状況を詳しく教えて欲しい。
- A: 欧州、北米、東南アジア（マレーシア）において、需要に大きな変動はありませんが、ガラス供給の増加による需給バランスの悪化が見られており、結果として価格への圧力につながっています。欧州では3つのフロート窯の増設計画があり、このうち1窯は既に稼働を開始していますが、もう1窯は操業開始を延期していると聞いています。またマレーシアではこの数年の間に中国のガラスメーカーが現地に進出して国内需要を上回る複数のラインを立ち上げており、これが他のアジア諸国や北米への輸出につながっています。一方北米では、新規の窯の立ち上げは計画も含めてありませんが、当社の窯も含めて、自然災害等の要因で停止していた既存の複数の窯が現在は全て復旧しております。さらにアジアからの輸入増もあり、特に西海岸で価格低下の圧力につながっています。これに対して当社としては、太陽電池パネル用ガラスなど、VA製品の売上比率を高め（VA化）、需給で価格変動する汎用品の影響を受けにくくすると同時に、社内では製造や物流のコスト削減を進めています。
- Q: 欧州の需給悪化はどの程度続くとみているか？既存窯の定期修繕を延ばすなど、生産調整は考えているか？
- A: ガラスの供給が増えるのは以前から分かっていたことで驚きはありませんが、販売価格への影響度やその期間を正確に予測するのは困難です。ただ、価格下落は今後も当面続くものとみえています。これに対する様々な対策はとっていますが、当社として現時点で大きな生産調整を行う予定はありません。
- Q: 2012年の欧州危機の頃と比べて、欧州の現状をどうみるか？
- A: その当時と比較すれば、コストベースの低減やVA化の推進などの各種施策の結果、景気循環への耐性も強まっています。VA顧客基盤が拡大し、VA品の品揃えも強化されており、収益性も改善されています。また、当時はガラス需要が急速に大幅に縮小したことによる需給悪化であり、直近の状況とは異なります。
- Q: 太陽電池パネル用ガラスが伸びているとのことだが、この上期でどのくらい伸びたのか？
- A: 前年対比で50%以上の数量増となっています。
- Q: アルゼンチンではインフレや経済情勢など懸念があるが、減損リスクなどはないか？
- A: 南米はアルゼンチンだけでなくその周辺国でもガラスの需要は堅調であり、昨今の経済状況でもそれは変わっていません。短期的な経済変動で若干調整する局面もありえますが、中長期的に見て、心配はしていません。
- Q: 業績予想下方修正とのことだが、種類株の償還方針に変化はあるか？
- A: 従前より種類株の償還は、期間の当期利益や自己資本の状況を見ながら行っていく方針であり、この方針は変わりません。現在の厳しい市場環境は今後ある程度続くものと想定していますが、当社としては、太陽電池パネル用ガラスなどによる売上貢献や、日本の建築用ガラス事業、北米自動車用ガラス事業といった重点事業の収益改善も進んでいます。コスト削減を今後とも継続して増益体質を作っていく所存です。その取り組みの中で、バランスシートの状況なども見ながら、出来るだけ早く償還を実施したいと考えています。

以上

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提のもとについており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市況、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。